

山形西高等学校演劇部 平成二十六年大会参加作品

『さくらなぐる』

(完全版)

作、佐藤俊一

時	所
プロローグ	山形市香澄町横町南 山形第一高等女学校の前
1 場	(5 場のみ神奈川県川崎市勤労動員先の寮)
2 場	
3 場	
4 場	
5 場	
エピローグ	
現在	

人物

語り手	
ユキ・ワインバーク（進駐軍将校の娘）	
エリザベス（進駐軍兵士）	
柴田かよ（昭和二十二年五年生）	
乾 洋子（昭和二十二年五年生）	
橋本チエ（昭和二十二年五年生）	
中沢光代（十八歳、二十一歳）	
小林（昭和十八年四年生）	
早坂（昭和十八年四年生）	
佐藤（昭和十八年四年生）	
松島（昭和十九年四年生、川崎で被災）	
荒木（昭和十九年四年生、川崎で被災）	
瀧口（昭和十九年四年生、川崎で被災）	
伊東（昭和十九年四年生、川崎で被災）	
金田（松島らと同年の生徒）	
女（校舎焼け跡に立つ娼婦）	
ユキの母	
生徒たち（川崎の戦災を免れた生徒を含む）	

【プロローグ】

幕開く

舞台には二、三人の部員がいる。

部長らしき生徒の合図で部員たちが集まり、円陣を作って掛け声。

部員たち退場して溶暗。

語り手にスポット

語り手

本日はこのように多くの方にご来場いただき、まことにありがとうございます。
ただいまより上演します作品は、私たちの学校の前身である山形第一高等女学校の、昭和十九年から昭和二十二年までの四年間の出来事をもとにして作ったものです。いろいろお見苦しい、またお聞き苦しい所もあるかとは思いますが、どうぞ最後までご覧くださいますようお願いいたします。

語り手

さて、第1場は昭和二十二年五月、日本が連合軍に占領されてすでに二年、山形にも進駐軍のアメリカ兵がたくさんいた頃の場面です。

場所は山形市香澄町横町南、山形第一高等女学校。当時、ここには五年制の高等女学校と二年制の女子師範学校、その附属小学校、附属幼稚園がありました。
おや、誰か来たようですね。

舞台明るくなる。語り手はそのまま劇中の人物となって良い。

【1場】

洋装の少女と軍服の女兵士登場

「」は英語の台詞

ユキ

「桜はもうすっかり散ってしまったわね。見られなくて残念だわ、もっと早く、日本に来れば良かった」

兵士

「そうですね。満開の時には、この通りは花のアーケードのようでしたよ」

ユキ

「そう。本当に残念だわ。夏休み前なのに特別に旅行させてもらっているのだから、不満は言えないけれどね。あなたにも余計な仕事をさせてしまつて」

兵士

「書類とにらめっこしているより、ずっといいですよ」

高女の生徒たち登場

柴田

あら、アメリカだ。

乾

アメリカ軍は女の兵隊もいるんだな。

柴田 女の兵隊だったら、齒、見せてもいいべが。

乾 女は大丈夫だべ。男の兵隊の前では絶対だめだがらね。

橋本 日本人でないが？ 前の人。

乾 んでも英語でしゃべったし、背も、高すぎるんでないが。

米兵とユキ近づいてくる。

ユキ こんにちは。

橋本 ありや、やっぱり日本人だどれ。

三人 こんにちは。

ユキ ここが山形第一高等女学校の跡ですか？

柴田 はい、ここが第一高等女学校です。校舎は焼けてなくなってしまいましたけど、まだ学校はなくなっていないません。私たちは第一高女の生徒で、五年生です。

ユキ ああ、そうですね。建物はないけれど、学校はまだありますね。私の言い方が良くなかったです。ごめんなさい。

柴田 いいえ、さすかえないっす。

ユキ さすくわ…？

乾 ああ、方言で、「かまいません」っていう意味です。

ユキ そうですか。さすかー…。

橋本 さすかえない。

ユキ さすかえない。…さつきと少し違いますか？

橋本 ああ、最後に「す」つけるんです。敬語になんのがな？

ユキ ああ、敬語…。日本語の敬語は分かりにくいです。

柴田 東京の人でないのがつす？

ユキ 私はユキ・ワインバーグです。ユキと呼んでください。私の父は、G H Qの軍政部で教育関係を担当しています。

柴田 アメリカ人？

ユキ 母が日本人なんです。

三人 ああ。

柴田 だったら二世なの？

乾 父親がアメリカ人だから二世でないべ。日系でなくて米系？

ユキ でも私はクリーブランド生まれで日本を知りません。だから無理を言っ父に付いてきたんです。

乾 クリーブランド？

ユキ オハイオ州です。湖のそば。レイク・エリー。

橋本 五大湖だが。オンタリオ湖、エリー湖、ヒューロン湖、ミシガン湖、スーペリオル湖。言えだつ。

柴田 おらだより歳上だが。

橋本 ハ、ハウ・オールド・アー・ユー？

ユキ セヴンティーン、十七歳です。

柴田 通じだつ！

橋本 へえ！ おらだと同じ！ 大人びでるんだねえアメリカ人は。
後ろの人は？ まるつきりアメリカ人？

ユキ エリザベスは父が私に付けた護衛です。リズでいいですよ。

兵士 ハイイ。

三人 ハ、ハイイ。

橋本 エリザベス？ （小声で）何だが似合わね名前だな。

柴田 私は柴田かよです。よろすぐお願いします。

乾 乾洋子です。

橋本 橋本チエです。

ユキ よろしくお願いします。少しお話ししましょう。

ユキ、校舎跡の礎石に腰掛ける。生徒たちも座る。エリザベスは立っている。

柴田 アメリカ人で体大つきいすね。食い物違うがらでしょうね。

橋本 アメリカでは、毎日牛乳飲んで牛肉食うんでしょ？

乾 チョコレートとかキャンデーとかケーキとか、いっぱいあるんでしょ？

生徒ら うらやますいなあー。

ユキ (笑) みなさんも、ご飯と味噌汁じゃなくてパンとミルクにしたら大きくなるんでしょかね？

柴田　ご飯はやめられないな。

ユキ・生徒　（笑）

ユキ　この、入り口の門まで続く桜の木、花が咲いたらきれいなんでしょうね。

橋本　んー、きれいだよー。

ユキ　ずっと前からあるんですね？

橋本　ここに学校ができた時に植えだんだと思う。四十五年前。

ユキ　桜のアーケード。この学校の生徒たちはみんな、この道を通っていたのですね。

橋本　んだねっす。

ユキ　桜並木と少女たち、美しい風景が、目に、浮かぶようです。私の言い方おかしくないですか？

乾　おかしくありません。ほんとにきれいです。きれいでした。

ユキ でした？

乾 ああ、正面の校舎がなくなつて、焼け跡なのが少し…。

それよりお父さんが軍政部の教育担当だったら、この学校建で直す話、知ってますよね。

ユキ はい。生徒さんや先生方が、大変熱心にお願ひに来ると聞いています。

柴田 んだら、日飛（につぴ）の跡ば譲ってもらえるんだがつす。

ユキ につぴ？

乾 日本飛行機株式会社のことです。

ユキ ああ、練習機を作っていた工場ですね。

柴田 私ら、あそごでピッ・ピッ・シャーって。

ユキ ？

乾 三年生の時、勤労働員でヤスリがけの作業したんです。今のはその練習の掛け声。

ユキ へえ、そうなんだ戦争中はアメリカでもたくさんの女の人が軍需工場で働いていたんですよ。

柴田 あら、なんだアメリカでも同じようなごどしでだんだね。

ユキ 日飛の工場は、今はアメリカ軍の病院になっています。父の話では、そこはもう山形県の療養施設になる予定だそうです。

柴田 そごをなんとかってお願いしているんだべ。三浦さんどごのお嬢さんなんか、あそこでご踊りば見せだんだべ。日本舞踊。進駐軍の前で。あんたのお父さんもいだけべ。

ユキ はい。ボーガス教育課長といっしよに。実は私も見ました。着物で踊る姿はとても美しいものでした。後ろに飾ってあったスクリーンも美しかったです。

橋本 スクリーン？

乾 屏風のごどだべが？

ユキ 私たちアメリカ軍将校の家族は、この町の方々に招かれて、あちこちの家で音楽とか踊りとかを見せてもらっています。これ、オモテナス、でしたか？

生徒ら お・も・て・な・し。（なんとなく「おもてなす」に聞こえる）

ユキ おもてな、す？

柴田 なまっつてっどれ。お、も、で、な、す！

ユキ おもでなす？

乾 柴田さん、あんたがなまっつてんだべ。（笑）

橋本 （小声で）アメリカは旧家のお屋敷だの立派な家ばみな接收して、勝手に住んでるんだべ。

柴田 進駐軍のご機嫌取りすねど何も動がねなて、情けないったら。戦争は負けだぐないな、ほんでん。

橋本 私ら、そごまでして学校の復興ば目指しているんだがら、日飛の土地建物、私らさ譲ってけろ。

ユキ 譲ってくれと言われても、決まっていることはなかなか変えられないのだと聞きました。

乾 県からも国からも助けが無くて、私ら行くところがないんです。ここはもともと国の土地だから、県立学校は建でらんないんだとか。

柴田 んでも師範が国立で高女が県立って分げらったのは、四年前ですよ、昭和十八年。それまで四十年間はずっと一緒の学校だったんです。

橋本 高女の方が生徒も多いし、高女だけの寄付ででぎだ校舎もあったんです。

ユキ いろいろ事情はあるのでしようが、今は国にも県にも余裕がないのでしよう。

柴田 私らあの焼け残った体育館ば六つに仕切って、真ん中さ通り道作って、寒い中授業受げでいるんだがら。

橋本 んだ。狭いし、天井ないがら、隣の教室の授業まるのまんま聞こえるんだ。

ユキ さぞ不便なことでしょう。けれど、この学校を焼いたのはアメリカ軍ではありません。この町は空襲を受けなかったんですよね。

柴田 んだ、空襲警報は何回も聞いたけどな。

ユキ それなのに、この学校だけが焼けて無くなっているのは、なぜですか？

三人 …。

ユキ あなたがたと同じ、この学校の生徒が焼いたのでしょうか？

橋本 知ってだのが…。

乾 校舎を焼いたのは、高女ではなくて師範の生徒です。高女の責任ではないんです。

ユキ 師範も高女も同じ学校だったのでしょう？ その生徒がなぜ自分の学校を焼いたのですか？ 私には分かりません。あなたがたは知っていますか？

乾 知りません。

ユキ みなさん、実は私、推理小説が大好きなんです。そして、今の話にもとても興味がありません。その人がどうして罪を犯したのか、あるいは無実なのか、真実を知りたいです。

乾 あんたには関係ないんだがら、かまわないでください。

ユキ でも、今ならG H Qの力で調べることができるかもしれませんよ。

柴田 そだな暇があつたら、学校建でられるようにしてください、学校。

ユキ おもしろいと思うんだけどなあ。

乾 おもしろ半分で関わらないでください。

ユキ まあいいわ。でもあなたがたにとって、この校舎の焼け跡は心の傷になっているようにですね。いっそのこと、この町も空襲を受けて町全体が焼けてしまえば、傷跡も目立たなくなっていたかもしれないですね。

柴田 なに、山形も空襲さつたら良いがつたてが。

乾 それは少しひどいんじゃないですか。

ユキ 一つの「例え」ですよ。気に触ったのなら謝るわ。

柴田 「例え」って、あんなね、

橋本 アメリカの爆撃でどれだけの人が殺さったが。東京も仙台も焼け野原だべ。
第一高女だて、川崎で六人も死んでるんだがら。忘れてねえべ。まだ二年しかた
ってねんだよ。

乾 忘れてなんか、いね。忘れらんないず。

ユキ 日本人は本当に論理的でないですね。

乾 あなたも、半分は日本人の血が流れているんでしょう。アメリカ西海岸の日系人
は、アメリカ国籍を持っていたても強制収容所に入れられたって聞いたけど、あな
たは東海岸でアメリカ人としてのうのうと暮らしていたってわけね。その間に、
B 29 は日本の母親や子どもの上に焼夷弾を降らせていたのよ！
私たちがあなたたちに何をしたらって言うの！

エリザベス、ユキの前に出て腰の拳銃に手をかける。

ユキ そのとおりです。

私も母も、日本人だということで収容所に入れられるようなことはありませんで
した。

私たちの国とあなたがたの国は戦った。あなた方はハワイの真珠湾を攻撃した。アジアからイギリスやフランス、オランダを追い出した。世界中を敵に回して勝てると思ったの？ 国民全部が名誉のために死ぬ覚悟だったの？ あり得ない、考えられない。正気じゃないわ。

乾

真珠湾ってアメリカ太平洋艦隊の基地でしょ。軍人はそりやあたくさん死んだでしょう。で、民間人は何人亡くなったの？

ユキ

五十七人だったかしら。

橋本

五十七人！ あんた、日本人は空襲で何人民間人が死んだか知ってんの？

ユキ

さあ、はっきりは言えませんが：沖縄や原子爆弾も入れて、数十万人：でしょうか。

橋本

はっ、五十人と五十万人だったら、日本人の命の重さはアメリカ人の命の一万分の一しかないってわけだ！ 何のごどはない、人種差別だべ。

柴田

やめろって、橋本さんも乾さんも。今そだなと言って何になんの。

ユキ

「レイシズム：」

兵士 「大丈夫ですか」

ユキ 「ええ、もちろん」

兵士 「表面は従順そうに見えても、日本人の心の底には私たちに對する敵意があるよ
うですね」

ユキ 「当然でしょう、あれだけの戦争をした相手なのだから」
（生徒らに）自分の生まれた国と母の生まれた国とが戦争していることは、私に

とつてとても難しい複雑な問題でした。そしてその答はまだ出ていません。
でも、もう戦争は終わったの。嫌な話はやめましょう。

乾 少し言い過ぎました。ごめんなさい。

橋本 あんたが爆撃したわけでもないものね。

ユキ 気にしないでください。それより、この、あなたがたの学校のことをもっと聞か
せてください。あなたがたの都合のいい時でいいですから。何かお手伝いできる
ことがあるかも知れませんか。

乾 んだね、今ぐらいの時間だいつでも空いているから、この辺さ来てください。

学校の再建にも何かいい道がないか相談に乗ってけつどありがたいな。

ユキ 分かりました。また明日来ます。

柴田 帰っべは。

三人 さようなら。

ユキ さようなら。またお話ししましょうね。

生徒たち去る。

兵士 「私たちも帰りましょう」

ユキ 「ねえ、リズ」

兵士 「何？」

ユキ 「私はアメリカ人？ それとも日本人？」

兵士 「私がアメリカ人であるように、あなたも正真正銘のアメリカ人ですよ」

ユキ 「ありがとう」

（ユキの回想）

溶暗 ユキの母登場後、スポット入る

ユキ ねえ、ママ。ママはアメリカ人？ 日本人？

母 ママはアメリカ人よ。

ユキ ママの顔は日本人。

母 日本で生まれたのだもの。

ユキ 近所の人が、ママのことを指さして「ジャップ」と言っていたわ。

母 そう。

ユキ 学校では、私もそう呼ばれるの。

母
：ユキ。

ユキ
顔も言葉も日本人と同じ。日本へ帰れと言われるけれど、私は日本を知らない。卑怯で醜くて、残忍で愚かなジャップが海の向こうで好き勝手しているんだって。でも、私の知っている日本はママ、あなただけ。ママ、私はどこにいればいいの？

母
ここがユキと私の国よ。戦争さえ終われば誰もそんなことは言わなくなるわ。どこにもいかないでママのそばにいて。

ユキ
ママの生まれた国が私のルーツなら、私はそこを知らなければならぬ。

（回想終わり）

溶暗

語り手
第2場は四年前にもどり、まだ戦争中の昭和十九年二月、学校が焼けてしまった直後の場面です。臨時休校になった間に生徒たちが焼け跡の片付けをしています。

【2 場】

溶明

生徒たち登場　冬の身支度で焼け跡の片付けをしている。軍手、道具（鍬やスコップ、ザル等）を持っている生徒もいる。

小林　みな焼げてしまつて。：いや、まだ焦げ臭いぞね。

早坂　毎日焼け跡の片付けで、手も顔も洗うど洗面器の水真つ黒ぐなんの。

小林　んでも、周りの家さ火移らねで良かったよね。

早坂　んだねー、水出ねくて困つて、一回掛けた水の流れてきたやつば汲んでまだ掛けたりしたんだものね。よぐ移らねつけよねー。

小林　期末テスト、延期さっただけど、いづするんだべ。

佐藤　それより私ら四年生は、あど一年、どこで勉強するんだべ。

早坂　仮の教室作るみだいだば。

小林　どさ？

早坂　この東北一の体育館ば仕切つて教室にするんだて聞いだよ。

小林 んだの？　したらバスケットでぎねべした。

佐藤 小林さん、バスケットじゃなくて「籠球」だべ。まず授業できねごんたら、バス：籠球も何もないべー。

小林 佐藤さん、今バスケットて言おうとしたべ。

早坂 小林さん、あんたから言い出したんだべ。

中沢 私、なんだが、体震える。

早坂 寒いのか？

中沢 寒いのも寒いけど、おかないの。

早坂 何、おかないのか？

中沢 私ら疑われでるんでない？　私らの誰かが校舎焼いだんでないがって。

小林 なして？　漏電だが、ストーブの不始末だがってゆてんだべ？　小遣いさん、ス

トープはちゃんと消えているのば見で廻ったって言うんだがら、漏電なんだべ。

中沢 んでも警察の人だべ、毎日学校の周り歩いてんの。目つき悪いがら分がるもの。

佐藤 新聞さも、あれだけの火事の原因も分がらねなて当局は何してんだーて、やんやん書がつでつからね、あんまり原因分がらねっていうど、生徒ださ疑い掛けつかも知んねど。

松島 先輩。おはようございます。

小林 ああ、松島さん。片付けの手伝い？

松島 はい、私、家近いですから。（後の生徒を紹介して）乾さん。私の近所なんです。

小林 ご苦労さま。

佐藤・中沢 ご苦労さま。

中沢 三年生？

松島 はい、もうすぐ四年生ですけど。

乾　私は二年生です、もうすぐ三年生ですけど（笑）。

上級生からそれぞれ自己紹介

松島　いっしよにこの辺り片付けでいいですか？

小林　どうぞ、お願いします。

佐藤　ここらへんは二階が図書室だけがら、これ全部、本ばかり。

松島　あれが全部燃えてしまったんですね。

乾　焦げでつけど、字読める！先輩、ちよつとたがてみてください。

松島に焼け焦げた本を手渡すが、頁が脆くも崩れ落ちる。

乾　ああ、だめだ。

中沢　もっと読めそうな本もあったんだけど、みな崩れてしまつて。

松島 あの時朝の集会で、小野校長先生、かわいそうならいしおれでましたね。

中沢 気の毒だけど責任者だものね。これだけの物、焼いってしまったんだがら。

佐藤 「落ちぶれて袖に涙のかかるとき人の心の奥ぞ知らるる」だっけが。

中沢 私の姉ちゃんは、あんまり校長先生のごど好きでないげんな。

早坂 お姉さんて師範の二年生だけが？

中沢 んだ、今朝もいっしょに汽車で来たの、漆山がら。あの向こうの方で、あれ、黒いコート着ったのが私の姉ちゃん。

早坂 なして校長先生ば嫌いな？

中沢 姉ちゃん、校長室で再テストさせらっただけの、十二月のテストで。

小林 へえ、さっぱりしやねつけ。なして再テストなてしたの？

中沢 疑わっただの。

小林 何ば？

中沢 カンニング。

佐藤 カンニングー？

中沢 この事は、姉ちゃんと同じ学級の人しか知らないんだ。

早坂 ほんでんカンニングなてしたの？

中沢 するわけない。姉ちゃん学年でずっと一番なんだがら。

早坂 んだら、なして？

中沢 誰かと勘違いさっだんでないがて思う。

佐藤 んだらそう言えばいいべした。

中沢 姉ちゃんそういうごと言わんね人だがら。損な質^{たち}だがら。

溶暗

語り手

十九年の二月の火事。中沢さんの姉千恵子さんの学年はそのゴタゴタの内に卒業し、自分達の生活の苦労に紛れて、事件のことを忘れていきました。妹光代さんも同じく三月に高女を去りました。

語り手

戦争が厳しさを増すと、出征する兵士に代わって、女学生も勤労働員に加わりました。近隣の農家へ行って農作業の手伝い。これは野菜や果物など食べ物がいただけなのでうれしかったです。そのせいか、先生方も交代で引率を引き受けていたようにでした。

戦争が厳しさを増すと、出征する兵士に代わって、女学生も勤労働員に加わりました。近隣の農家へ行って農作業の手伝い。これは野菜や果物など食べ物がいただけなのでうれしかったです。そのせいか、先生方も交代で引率を引き受けていたようにでした。

昭和十九年も夏が過ぎ、秋になると、県内から男子は中学校、女子は高等女学校の生徒が関東地方の工場に出向くことになりました。第一高女では四年生三クラスが川崎市に行くことになり、壮行式が行われました。気分はまるで修学旅行でした。

溶明

鉢巻きをし、行列を組んで笑顔で駅に向かう生徒たち（松島、瀧口、伊東など）。

リュックを背負ったり風呂敷包みなどを持ったりしている。
見送る生徒たち（柴田、乾、橋本、金田など）。「元気で」、「がんばって」などの掛け声。

金田 元気でね。本当なら私も行がんなねんだけど。

松島 金田さんはお母さんがご病気なんだがら仕方ないよ。しっかり看病してください。

金田 本当に元気でね。手紙書くからね。

生徒たちから「○○ちゃん！」「先輩、お元気で。」などの声が掛かる。

溶暗

語り手

体の弱い者、家族の看病が必要な者は動員から外れて山形に残りました。しかし当時はそれが恥ずかしいことのように思われたのでした。

さて時は再び戦後にもどって：あ、どうも時代が行ったり来たりですみません。分かりにくいでしょうが、作者がどうしても、四年間をこう前後しながら、昭和二十年のあの日にたどりつく書き方にしたいと言うものですから。よろしくおつきあいください。

さて第3場は戦争が終わって一年後の昭和二十一年、夏のある夜。

【 3 場 】

溶明

柴田　　すぐぐ遅ぐなつてしまたね。校友会、長がったからね。

乾　　んでもこれで高女の復興運動は動き出したね！　先生方も父兄の方々も協力的だし、新しい校舎が建つまで私らががんばつね。

柴田・橋本　　うん！

橋本　　：ねえ、スズラン街通つて行がね？　ここ暗くて嫌^やんだ、気味悪い。

乾　　んでもこつちの方が近いがら。

橋本　　この道であんまりいい話、聞がねよ、夜は。

乾　　何？　何言つてんの？

暗がりから女が立ち上がる。

生徒たち きゃあ！

乾 わ、私たちの学校で何してるんですか！

女 …高女の生徒さんか。何してるって、仕事してんのさ。

橋本 仕事って何ですか？

女 夜中にこだな暗い所さ立ってるんだがら、分かるでしょ。

柴田 …パンパン、だが？

女 生きるための仕事よ。おまんま食べなきゃ死んじゃうでしょ。

乾 汚らわしい！

女 はー。あんたら、お上品な女学校のお嬢様なて言ても、焼き餅で狂って学校さ火
つけで焼いちゃうんだものな。汚らわしい私と変わらないよ。お・ん・な・じ！

乾 それはただの噂です。そんな人じゃありません！

女 どんな人だつて言うの！ 刑務所さ入ってだんでしょ！ 罪人じゃないの！

人が来る気配。

女 また誰か来た。今日は余計な客ばかりきやがる。

女、去る。

橋本 ；そりゃよ、ぺんぺん草の生えっだ焼け跡だけよ、ここは私たちの学校だべ。

そごさ、あだな人入るなて、嫌んだつたら。情けないこと。

柴田 嫌んだ噂ばり広まつし。あの人が放火さえすねがったら、こだなごどにはならねがったのによ。

人が近づく。（懐中電灯の明かり）

中沢 大丈夫？ 大^おきな声すっから来てみだけど。

橋本 大丈夫です。なんともないです。

中沢 明るい道通って帰りなさいね。いっしょに行こうか？ 私も駅から汽車に乗って帰るから。

柴田 ありがとうございます。

乾 中沢さん？ 中沢さんですよ。乾です。小林さんたちとここで焼け跡の片付けした時に松島さんといっしょにお会いしました。

中沢 え？

乾 学校、四年生でお止めになって、今はどごがさ勤めているんですか？

中沢 ええ…。

橋本 中沢さんて、あなたがあの人の妹さん？

あなたの姉さんのせいで私たちは学び舎を無くしたの。伝統ある校舎ば失ってしまったの。私らがどだいに苦労してつか、分がりますか！

柴田 あなたのお姉さんが火さえつけねがったら、私らこだいに苦労すつこどないんだけよ。あの校舎、そっくり残っていだらなんぼがいがつたべに。
それが先生ともう一人の生徒と三角関係になって…

乾 柴田さん、やめろ。

柴田 なして。みんな言^ゆってつべ。

乾 ほだなただの噂だべ。世間の人はみな、あるごどないごど勝手に言うもんだ。

橋本 乾さん、あんたは犯人の味方すんのが。

乾 犯人の味方で、だいたい、本当に放火したのかどうか分がらねんだから。

橋本 何言^ゆってだの、裁判で自分がやっただて認めだんでしょ。

乾 私、今でも信じらんない。何も証拠ないんだがら。

中沢さん！ お姉さんは、高女でも師範でも成績優秀で、人柄も良い人だったんでしょ？ 放火したなんて何かの間違いなんでしょう？ 世間の噂ではまるで嫉妬に狂った女みたいに言われてますけど、本当のところはどうなんですか？

中沢 ごめんなさい。本当にすみません。姉のせいでみなさんに迷惑かけでしまって。やったことは悪いことなので本当に申し訳ありません。

中沢、走り去る。

乾 まさか…、ほんでん、火つけたんだが…。

柴田 乾さん、早くあべは。

橋本 んだ、早くあべ。

三人去る。

溶暗

語り手

中沢千重子さんは懲役八年の判決を受け、栃木の女囚刑務所に服役しましたが、模範囚として三年で仮釈放され、昭和二十二年五月、山形に戻りました。

その際、千重子さんを裁いた判事と検事、弁護士、そして山本校長が同席して父と娘を祝う会が開かれた、との記事が新聞に載りました。少し不思議な気がしませんか？

次は今の場面の翌年、昭和二十二年の秋、校友会が企画した「復興バザー」の最中です。

【 4 場 】

語り手

会場は、女子師範学校の第一寄宿舎。ここの畳敷きの部屋も教室として使われていましたが、そこでバザーを開催したのです。戦争中に空襲に備えて新しく作られた道路から入って北側が入り口でした。

溶明

朝、多くの生徒たちが準備をしている。受付に乾たちいる。
ユキとエリザベスが登場。

乾
早いね。開店は九時からだよ。

ユキ
でもお客さん、もう並んでいますよ。何を売るんですか？

橋本
赤ちゃんの産着とか、純綿の割烹着とか、お手玉なんかのおもちやとか、

柴田
食べ物もあつから、お汁粉、お団子、玉こんにゃく、

ユキ
へえー。グツジョブですね。

柴田、橋本、販売物の包みを持って退場。
中沢が登場し、バザー会場に入ろうとする。

乾　中沢さん？　中沢光代さん？

ユキ　中沢光代？

乾　待ってください！

ユキ　「リズ、止めて！」

走り去ろうとする中沢をエリザベスが止める。

ユキ　「リズ、手荒にしないで」

ごめんなさい。何もしませんから、安心してください。ただお話が聞きたいだけですから。

中沢　アメリカさ、何しやべろてや。

ユキ　お姉さんのことです。四年前にこの校舎に放火したということですね。

中沢　それは…、何を言われても仕方がないことで、すみません。

乾　中沢さん、あなたのお姉さんは特別待遇のすばらしい模範囚で、懲役八年のとき

ろが新憲法施行の恩典もあって、たった三年で仮釈放になたんですよね。新聞記事さは、まるで聖人君子かキリスト教の聖女みだいに書がっでました。ண்டும்、私らはいまだに校舎のない学校で苦勞していらんなねんです。私らの悔しい気持ちさが、分かりますか。

中沢 本当にすみません。少しでも学校建てる役に立てればと思て来たんですが。私が来てはだめだったんだね。

ユキ お姉さんに会えるでしょうか？

中沢 だめだ。姉ちゃんは誰でも会うつもりはないがら。

ユキ ではあなたの知っている事を教えてください。

中沢 何もしゃね。姉ちゃんとはあの日の夜、警察に連れて行かれてからずっと会わねんだけもの。面会だて父ちゃん母ちゃんだけ行つたがら。
戻てきてがらもまだほだな話なてしてねし。

ユキ 私、少し調べさせてもらったのですが、お姉さんの弁護士は、自白以外に物的証拠は何もないのだから無罪にすべきだと主張していましたね。

中沢 んだっけね。

ユキ それでもお姉さんは自分がやったと自白したんですね。

中沢 自白…、自白したなんて信じらんない。

ユキ 証拠もないのになぜ無罪を主張しなかったのでしょうか？

中沢 あんたさ言^ゆても仕方ないべ。

ユキ 関係ない外国人だから言えることもあるんじゃないですか？

中沢 …。

ユキ 犯行動機は、世間でしきりに噂されている教員との恋愛沙汰ではなく、十二月の期末テストでカンニングをして厳しく叱られたことへの恨みからのことだとされていきますね？

中沢 姉ちゃん、カンニングしたというごどになってっけど、学校からは何も処分されでいねんだ。学校も薄々間違いだて分がっていだんだね。姉ちゃん、私のごど心配して、仕方なく認めたんだべ。私のために。

そのありもしないカンニングの前科があるばかりに、姉ちゃんが放火の犯人に仕立て上げらったんだ。私はそう思ってるんだ。

ユキ あ之夜、お姉さんはいつもより遅く帰宅しましたね。その間のアリバイはなかったのですか？ その時間のアリバイさえあれば、証拠不十分で無罪は確実だったと思います。

中沢 あの校舎の燃えた晩、姉ちゃんは家さ遅く帰てきた。んでもそれは火つけたからでないんだ。そのころ勉強見でもらってだ人の所さ寄ってだっけの。姉ちゃん、その人さ氣遣つて黙つてだんだべ。んだがらアリバイがないの。

ユキ なぜそれを裁判で言わなかったのですか？

中沢 なぜって…、男の人と二人だけで一緒にいだなて言えるわけながったし…姉ちゃんその人のごどほんとに好きだったから。

ユキ …ああ、そうだったんだ。

中沢 姉ちゃんは何も言わない。今のは私だけの考えだから、誰さも言わねでけろ。

ユキ 分かったわ。話してくれてありがとう。

乾

弁護士さんって、あの後すぐに山形市長さな人だが。一年ぐらいでやめだげど。その関係で市役所さ勤めだんですね。

中沢

んだ。私の担任の先生は教頭先生だった。教頭先生も校長先生も、お姉さんのことはあなたとは関係ないんだから、五年生に進級しなさいって言うてくれたの。でもやっぱり居づらくて、四年生の三月でやめだけのは。その後、^{あど}姉ちゃんの弁護士してくれた人から援助してもらって市役所さ入たの。

乾

中沢さん、あなたもお姉さんも犠牲者だったんですね。この時代の。

中沢

どうだがね。早く、新しい学校出来っどいいね。

中沢去る。

語り手

この年の夏、生徒たちは、県議会への請願デモ行進を行い、後援会はノン・プロ野球チームの大会を企画し、当時のお金で七万円の収入を得たりしました。もうみんな必死でした。なぜなら、翌昭和二十三年から高等女学校は新制高等学校に移行することが決まっいて、それまでになんとしても新校舎を建設するお金を用意しなければならなかったのです。

昼、バザーの真っ最中。受付にいる乾、柴田、橋本。様々な人が受付を通過して出入りする。

松島登場。

松島
こんにちは。

柴田
あつ、松島先輩！ お久しぶりです。

松島
すごい賑わいねえ。

橋本
もうどんどん売れて、飛ぶようになってこういうことなんだって。

松島
これなら学校もすぐに再建できそうね。私も何か買って協力するわね。

乾
ありがとうございます！

ユキ、エリザベスを伴って登場

柴田
あ、ユキー！ リズー！

二人手を振る

兵士 「すごい人出ですね。外国人の私も紛れて目立たなくなってしまう。」

ユキ 「こんなに多くの人がこの学校の再建を願っているなんて感動するわ」
「こんにちは、みなさん。」

三人 こんにちはユキ、リズ！

ユキ 大変な人出ですね。

柴田 おかげさまでー。

乾 こちら、松島さん。私たちの二回上の先輩です。

ユキ どうも、ユキ・ワインバーグです。こちらの生徒さんたちとは仲良くしてもらっています。どうぞよろしく。

握手をしようとするユキを睨みつける松島。

松島 アメリカ人見ても、あまりいい気持ちはしないですね。あなたたちのせいで私は友達や先生を失くしたんです。

ユキ

ああ、東京の近くで、カワサキでしたか、軍需工場で働いていたんですね。日本では町の中に軍需工場があったので、町ごと爆撃しなければならなかったのです。仕方がなかったのです。

松島

嘘だ。

ユキ

え？

松島

無差別爆撃だべ。ただの人殺しだ。

乾

先輩！

ユキ

それを言うなら、都市への無差別爆撃は日本が始めたのですよ。中国のチョンチンで。

松島

チョンチンで、重慶のごどだが。重慶で、川と川の間さある島みだいな場所なんだべ。そだな狭い所さ何もかも持って国民政府が逃げ込んだのがそもそも間違いだべ。

ユキ

それだけじゃありませんよ。それに、あなた方が同盟を結んでいたドイツも無差

別爆撃をしました。スペインのゲルニカという町を知っていますか？ 連合国の都市爆撃は、これらに対する正当な報復だと思います。

松島

「せーとーなほうふく」だて？ 中国の仇^{かたき}ばアメリカが討づつてが。工場だて何だて関係なく、町の人ば全部焼き殺すつもりだったんだべ。女も子どもも、一晩で千人から死んだんだよ。町ば焼夷弾で火の海にして、その中で逃げ廻る人ば狙って機銃で撃ったんだよ。燃える油ばその人だの上さ撒いたんだよ。みな、声も上げねで死んでったんだよ。…地獄だわ。

ユキ

…。

松島

私ら、空襲の後、鶴見の大っきなお寺で寝っただんだけど、私、お寺の裏で撃墜さつたB 29 見に行ったの。おっきな機体だった。アメリカが憎^{にく}くて憎くて、アメリカ兵いだら、なにしても友達や先生の仇討だんなねって思っていた。んでも、その機体の中さ、アメリカ兵死んでいだっけの。私、それ見だら、何にもできねがった。

三人

先輩…。

松島

私、その機体の破片、拾って持ってきた。

ユキ どうして？

松島 どうしてかな。分がらない。んでも、そいづ持っている限り、何があっても友達のことと忘れないような気がして。

乾 松島先輩、私たちだって忘れていません。でも、もう戦争は、殺し合いは終わつたんです。これから先のことを考えましょう。

松島 何言^ゆたたて、日本は負けだんだものな。日本は悪者、アメリカさんは正義の味方。アメリカは格好良いもんな。みな「鬼畜米英」なてケロツと忘つてしまたんだべ。

乾 「敵は悪魔だ」と思えば人は人を殺せるんです。アメリカも私たち日本人を悪魔のように思っていたんです。でも、本当はどちらも悪魔じゃなかった！

松島 あんたら仲良ぐしてで、いいなあ。私はだめだ。

松島、去る

乾 ごめんなさいね。先輩は心がひどく傷ついているんです。

ユキ わかります。私は大丈夫です。

兵士 「アイ、アム、サスカエナイツス。」

三人 あ。(笑い)

ユキ みなさん、学校のことだけど、まだ言っちゃいけないんだけど、決まりましたよ。

乾 え？ 何ですって？

ユキ 父が言っていました。日飛の跡地を、あそこの従業員の教育施設だった所をあなたがたに譲るって。

三人 ええっ！ 本当に！

ユキ 内部では決まったことなんですって。あとは発表を待つばかり。

柴田 やった！ 私たちの復興運動は成功したのよ！

乾 ありがとう。あなたにもお礼を言うわ。

ユキ 良かったわね。でもあそこは狭いわ。これから校舎をもっと建て増ししないとい

けないですよ。

橋本 んだからバザーやるんだべ！　じゃんじゃん売って稼がんね！

ユキ 私はアメリカに帰ります。母が帰ってきなさいってうるさいの。学校もあるしね。アメリカと日本は本当にひどい戦争をしたけれど、これからはきつと良いパートナーになれると思う。あなたがた日本人は私の母と同じでとても賢くて優しい人たちだって分かったから。こんな人たちを野蛮なモンスターみたいなイメージに作り上げて、たくさん殺したのは恐ろしい過ちね。アメリカも謝らなければならぬ。許してくれますか？

乾 許すなんて、私たちは負けたんだから……。でも、お互いに間違いを繰り返さないように、手を取り合って行きましょう。

ユキ ええ。

握手する二人
溶暗

語り手 今私たちの学校がある場所で校舎の再建が始まりました。建設場所の整地、建物の清掃、そして冬の冷たい雨の中での引っ越しとまだまだ苦労は続くのですが、

お話はそろそろ結びに近づきました。

【 5 場 】

語り手 次の場面は、昭和二十年三月、川崎市の明治産業（今の明治製菓ですね）の寮での様子です。布団をかぶって寝ていますが、何かゴソゴソしているようです。

溶明

荒木 松島さん、何しったの？ シラミでもいだのが？

松島 シラミなて、昨日風呂炊いで入ったんだからいねよ。あれ、校庭で何かの式で、みんな並んでてさ、そんで豚。

瀧口 豚？ ああー、寄宿舎で飼ってた子豚。

松島 それが、みんな並んでいだ所さ走ってきて、

四人 あはは。

伊東 みなして追っかけで、はは。おもしろいっけね。

四人の笑い声

遠くに空襲警報のサイレンと爆音

松島 （窓の外を見やる）東京、空襲さっでだば。

瀧口 三月十日零時半。アメリカは私らば眠らせねつもりなんだね。

伊東 汽車、動くべが。私、山形さ帰るんだげんと。

瀧口 伊東さん、看護婦になる学校さ行くんだけね。

伊東 んだ。まだ卒業してねのに、もう看護学校の制服もらたんだじゃ。

瀧口 いいなあ、帰れで。その内、師範さ合格した人も農家の人も帰るんだべー、残んの三十人ぐらいだじゃあ。

松島 私らの卒業式、どうなるんだべね？

伊東 山本校長先生が川崎さいらしゃって、卒業証書くださるって話だば。

松島　へえ、こつちですんの。

瀧口　四年生で繰り上げ卒業がー。卒業したら動員解除で山形さ帰れんの？

松島　この時局だもの工場の仕事やめらんないべした。それに、山形さ帰ったてどごかの工場さ動員されるだけだべ。

伊東　明治さいだら、仕事は楽し、お菓子の詰め合わせもらえるし、あれ山形の弟さ送ってやたら喜んでだよ。今時甘いものもないがらね。明治は良いっけな。

荒木　私も送ってやたよ。

それよりあれだべ伊東さん、私らの作った製品受け取りに来る、神奈川中学の学生さん、あの男の人いだから良がったんだべ。

松島　あー、あの背の高い人。

伊東　何、何言^ゆてだの。ほだなんねず。

三人　あはは。

滝口　んでも同じぐ工場で働ぐんだったら、家族と一緒にいられる方がいいべ。こだな

遠ぐで、親兄弟離ればなれでいだぐない。

松島 （東京方面を見て）今日はなんだがすごいな。空、真っ赤だ。

伊東 歌舞伎座も焼げっただべが。私、一回行ってみだかった。

瀧口 あの下さ、人、いるんだな。

荒木 明日は我が身だべ。

瀧口 やんだ、おかないごと言^ゆわねでけろ。

しばしの沈黙

松島 B 29 低いなあ、あいづば撃墜でぎねのがなあ。鉄砲で撃ったて当たるんでないが。

荒木 松島さんは勇ましいですね。男だったら少年兵になってたでしよ。

松島 アメリカば爆撃でぎる秘密兵器あつたら良いんだけどな。

んでも、東京あだいい爆撃されるんではお終いでないが？ 中国だら、南京だの武漢だの何回首都ば占領さつても、奥さ奥さ果ては重慶まで逃げて行げっけんど、

日本は逃げるい場所ないものな。

伊東 松島さん、お終いって、日本負げるってか？

瀧口 ほだなごと言^ゆたらだめだべ。

松島 あれば見だら、分がつべ。

三人沈黙して窓外の光景を見つめる。

溶暗

語り手

四月四日、ついに川崎市も米軍の空襲を受けました。この状況では勤労働員の継続は危険だと判断し、学校も生徒の引き上げを考えていました。しかし、時すでに遅く、四月十五日夜十時ころ、川崎市への大空爆が始まりました。

その時の様子を、五十回忌法要の際に捧げられた弔辞から朗読します。

就寝後まもなく、不気味に鳴り響く空襲警報のサイレンに眠りを覚まされました。その頃、連日夜中の空襲警報で起こされていた私たちは「ああまたか」と眠い目をこすりながらいつものように防空ずきんと救急カバンを身につけ、防空壕に駆け込みました。でも、その夜はなかなか解除のサイレンが鳴らず、いつもは川崎

市の上空を素通りしていたB29の爆音が間近になったと思うとまもなく激しい爆撃音が聞こえてきました。壕の入り口から外をのぞいてみると、すでに敵機の投下した照明弾でまわりは真昼のように明るくなっており、焼夷弾で人家が燃え空も真っ赤に染まっていました。そのうちパチパチと物が燃える音がしたので壕の外に出てみるとすぐ傍らの柵が燃え始めていました。このままでは危ないと思い、大声で他の壕にいらっしゃる先生を呼びましたが、あたりは煙にかすんでよく見えず、また激しい爆音と爆撃音でもう何も聞こえませんでした。仕方がないから私たちだけで逃げようとみんなで壕を飛び出しました。動員先の明治製菓の工場と寮の往復だけで、ぜんぜん川崎の町の地理もわからない私たちはただ逃げていく町の人々の後について走るしかありませんでした。爆撃はますます激しくなり、雨のように降り落ちる焼夷弾があちこちで燃え上がる中を、私たちは何度か道ばたのわずかな水たまりに身を伏せながら三々五々手をつないで必死に逃げ回りました。子どもを背にした母親、大きな荷物を抱えた人など、近くを走っていた人たちが次々と倒れていく有り様はまさに地獄の様相でした。

空襲警報

轟々たるB29の爆音と焼夷弾の落下音、機銃掃射の音が耳を聳するばかりである。その中で弔辞を朗読する生徒（語り手　その声は轟音の中でも聞き取れる）その後景に二三人ずつが登場し、撃たれ、焼かれ、倒れていく。

轟音が止み、静寂が訪れる。

やがて倒れている人々が一人ずつゆっくりと起き上がりつつ、次の台詞を言う。

人々

私は何をしたというの？
私が誰かを傷つけたの？
私が誰かのものを奪ったの？
私の生活を返してください。
私の家族を返してください。
私の命を返してください。
私たちが何をしたというのでしょう！

溶暗

語り手

翌日、亡くなった生徒たちと田中恵美先生を茶毘^{だび}に付しました。田んぼの中で、ありあわせの板や木切れを集めて長い時間をかけてお骨にしました。半年間暮らした寮は焼けてしまったので、東芝の組は秋田中学の生徒が入っていた別の寮に、明治の組は鶴見まで歩いて、総持寺という大きなお寺に身を寄せました。
その二日後、山形から校長先生や県の職員、生徒の親が夜行列車で駆けつけました。生徒たちは着の身着のままでまる三日間を過ごし、同級生の遺骨と共に四日目に故郷^{ふるさと}の駅にもどりました。
でも彼女らの目の前にはやはり焼け跡が、あの校舎の焼け跡があったのでした。

溶明

語り手

生徒たちが山形駅を出ると、学校までの道に卒業生やたくさんの方々が出て迎えてくれました。スズラン街は泣き声でいっぱいでした。

学校に近づくと、正門に向かう桜並木の道の両側に在校生徒が立ち並び、急いで生徒が作詞し音楽の先生が作った弔歌を歌っているのです。

柴田

来たので、歌いましょう。（歌い出しの合図をする）

遺骨を首から提^さげ、抱いて歩く生徒たち。弔歌を歌いながら迎える生徒たち。

生徒 A

熊ちゃん！ 熊谷さん！

伊東

ごめんなさい！ 私ばかり、先に帰って来てしまっ！

金田

なして、なしてみんな死ななねの！ みんな死ぬんだったら、私も母ちゃんば人さ頼んで、川崎さ行けば良かった！

生徒 B

荒木さん、荒木さん！

生徒 C

鈴木さーん！

生徒たち 田中せんせー！

生徒D 奥山さーん！

やがて音楽

桜がはらはらと散り、風に流れる。

松島がひとり前に出てくる。

松島 桜が満開でした。その時から私は少し桜が嫌いになりました。

音楽が高まり、劇中の芝居は終わり。音楽切れる。

溶暗

【エピソード】

溶明

全員整列している。

語り手 これで私たちのお芝居は終わりです。最後までご覧いただき、まことにありがとうございました。

全員

ありがとうございました。（礼）

幕が下りた体で礼から直り、それぞれがそれぞれの思いを持ちつつ片付けにかかるところで、

幕